

ペルー 今年上半期の果実輸出の分析

[FreshFruitPortal](#) 2024年9月17日

農業輸出情報のフルクトゥアンテ社は最近、2024年上半期のペルーの農産物輸出に関する最新のレポートを発表した。本サイト(Freshfruitportal.com)はペルーの主要な果実の現状と動向を分析した同社のデビッド・サンドバル氏に話を聞いた。

サンドバル氏は、ペルーは昨年に比べていくつかの悪天候による課題を経験しており、「今年は一部の品目、特にブルーベリーに影響が出ており、今シーズン序盤の出荷が減少した。これはまさに昨年の悪天候に起因するもので、主に剪定の遅れにより今頃になって影響が出ている」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

同氏は、今年上半期の輸出向け農産物は例年ほど好調ではなかったが、「しかし、成長した」と付け加えた。

アボカド

アボカドに関して同氏は、果実のサイズが要求を満たしていないため問題があると指摘した。

同氏は、上半期にはアボカドは18%のシェアを占めるペルーの主要な輸出農産物であり、ドル建ての輸出額は同様(約20%)の率の成長を遂げたと詳述した。

「輸出の66%はオランダ向けであり、スペインが20%、米国が12%でそれに続く。」

産地については、リマ、ラリベルタード、ランバイエケ、イカ及びアンカシュの各県が主要産地であると指摘した。

「2025年シーズンに期待するのは、果実のサイズが大きくなり、出荷の面で重要な役割を果たせることだ。」

生食用ブドウ

サンドバル氏は生食用ブドウの市場分析について、イカ県がこの果実の生産において重要な地域であり、ピウラ県とアレキバ県がそれに続くことを説明した。

「ブドウは2024年上半期の2番目に重要な品目である。ペルーは主に3つの輸出市場に出荷した。第1位は米国でシェア48%、次いでメキシコが11%、オランダが9%であった。」

ブルーベリー

ブルーベリー業界は、分析対象期間に112%の成長を遂げ、最も重要な品目の第3位にランクされた。

「通常と異なり、昨年の終盤、つまり10月、11月、12月の出荷量がそれほど多くなく、それらの月の出荷量が今年の最初の数カ月にシフトした。そのため、今年前半の成長率が大きくなった。」

同氏は、ブルーベリー栽培は寒さで苦労していると説明した。さらに、低温の結果として剪定が遅れた。「来年は、2024年前半に比べて成長率が鈍化する可能性が非常に高い。」

市場に関しては、主な輸出先として63%が米国に集中し、オランダと英国がそれに続くことを述べた。

マンゴー

マンゴーは、2024年のペルーの農産物輸出第6位の品目であり、主な輸出先はヨーロッパ、特にオランダ、スペイン、英国である。

サンドバル氏は、「輸出のほぼ3分の1、つまり28%を米国向けが占め、そこでの主な競争相手はメキシコである」と説明した。

同氏は、2023年のペルーの農産物輸出額は合計100億ドルであったと述べた。「これに対し、メキシコは600億ドル強を輸出しており、これは我が国の輸出額の6倍である。」

マンゴーについては、昨年はピウラ県、カスマ県をはじめとして開花に適した天候ではなかったため、特に年の最後の数カ月に出荷量が大きく減少したと同氏は詳しく説明した。

同氏は、今年、生産者は着花量が多いことを目にしており、「これにより、生産者はやや大玉のより良い果実を得ることができると見られ、一部の地域では、輸出できない小玉のマンゴーを間引きしている」と説明し、また、マンゴーの出荷量は年末までに増加し始めると予想していると述べた。

同氏はさらに、マンゴー生産者が供給量を調整し、ヨーロッパと米国をはじめとする様々な市場に産品を出荷する際に、特定の週の供給過剰を防ぐよう出荷時期を検討することを推奨した。

そのうえで、生産者が自ら組織化して全員が同じ時期の同じ市場に出荷しないようにすべきであり、「収穫期間をもう少し延ばせる人は、1週間後に出荷するべきだ。そうすれば、供給が集中して価格が下がるという問題を避けることができる」と同氏は付け加えた。

チャンカイ港

今年の11月に予定されているチャンカイ港の開港が近づいている。この点について同CEOは、ペルーの産品が最適な条件で約束された時間にアジア市場に到達できることが、「果実の需要が大きく要求が厳しい中国、日本、台湾、韓国に輸出しようとする際の最大の課題であったことから」、この開港により実現されることが望まれると述べた。

同氏は、新港が開港すると、「ブドウの主要産地であるイカ県が港に非常に近く、果実を輸出するための迅速なアクセスが得られるので、主にブドウが輸出されるだろう」と付け加えた。

サンドバル氏は、中国は商業的な観点からペルーで非常に戦略的な行動をとっていると述べた。「上海の港でペルーの産品が扱われるよう公共部門と民間部門の両面でうまく対応すれば、受け入れられるだろう。」

同氏は、1年や2年で結果が出ないことを強調した。「おそらく、他のすべての港湾と同様に、中長期的に、5年から10年くらいで結果が出るだろう。」

推奨事項

このセクターのグローバルな視点から、サンドバルCEOはペルーの果実業界にいくつかの推奨事項を示した。

「様々な市場に出荷を分散させ、新しいニッチ市場を探ることが重要である。この戦略は、新しい市場に参入するための植物検疫要件を満たすため、ビジネス部門だけでなく政府にも共有されなければならない。」

同氏は、道路が維持管理されていないため、ペルーの陸上物流を改善する必要があると付け加えた。「多くのことを改善する必要があるが、その一つが国内の連絡道路である。」

同氏は、「生産、出荷期間、及び商業的なコミュニケーションに細心の注意を払わなければならない。なぜなら、外国の取引先とコミュニケーションを取らなければ、彼らは我々が持っている産品を知らず、彼らが我々を知らなければ、我々は産品を売ることができないからだ」と述べて締めくくった。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)